

経営比較分析表（平成29年度決算）

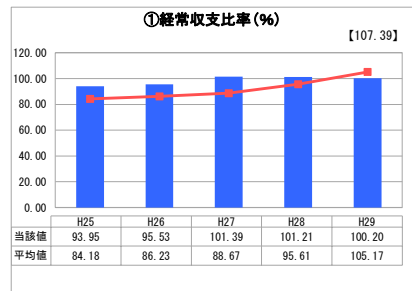
岡山県 和気町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	64.55	60.46	2,571	

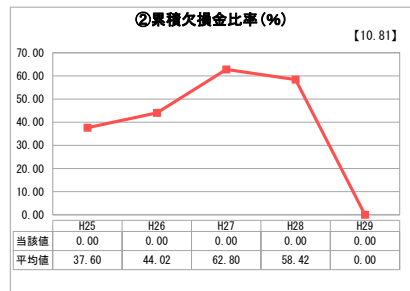
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
14,452	144.21	100.21
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
8,722	27.11	321.73

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均

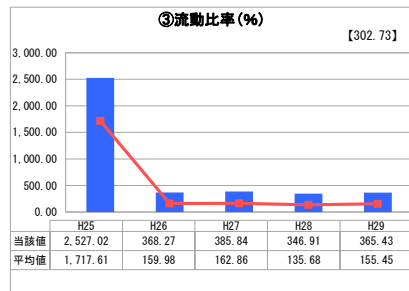
1. 経営の健全性・効率性



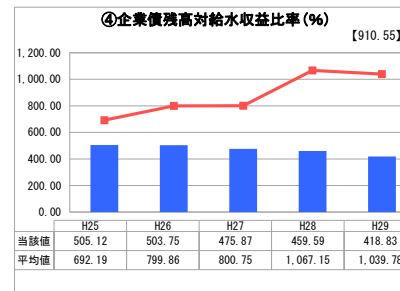
「経常損益」



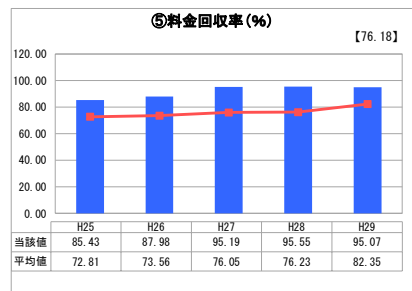
「累積欠損」



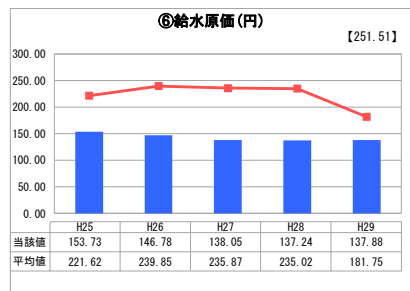
「支払能力」



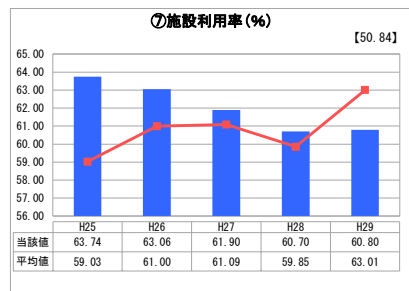
「債務残高」



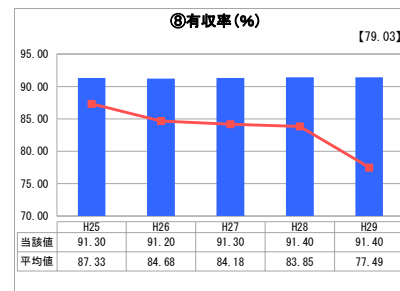
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

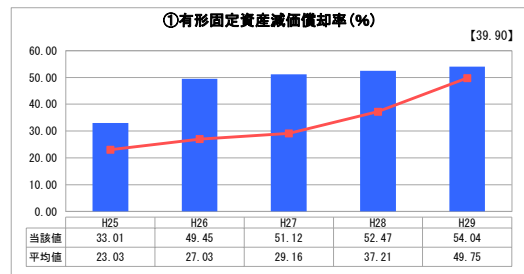


「施設の効率性」

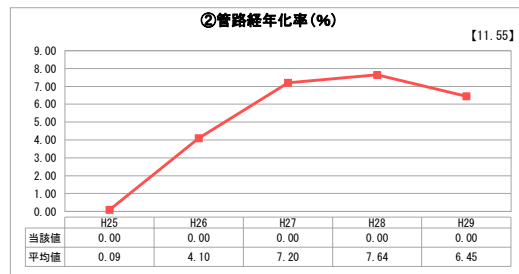


「供給した配水量の効率性」

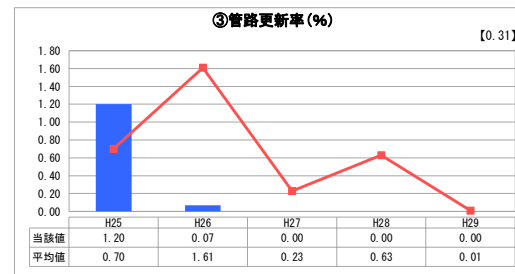
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率については、100%を超えているものの、今後の管路更新等の財源確保のために、一層の経営改善を図っていく必要がある。

流動比率については、平成26年度からの法適用企業への会計制度移行に伴い、大幅に減少しており、類似団体も同様の傾向となっている。

企業債残高対給水収益比率については、大規模な事業がなかったこともあり、類似団体と比べ減少傾向にある。今後は、更新事業等があり、比率の増加が見られる為、適切な投資に努める。

料金回収率については、類似団体より高い水準ではあるが、給水収益のみでは賸えていないことが分かる。長期的で健全な水道事業の維持のために、料金収入の確保及び、適切な料金設定を図っていく必要がある。

給水原価については、概ね前年並みで推移しており、類似団体よりも低い水準を維持している。今後も適切な維持管理に努めていく。

施設利用率については、人口減に伴い減少傾向にある。施設の規模等適正化検討する必要がある。

有収率については、類似団体より高い水準を保っており、ロスと比較的少ないと思われる。しかし、より一層の管理に努めたい。

2. 老朽化の状況について

老朽化の状況については、類似団体よりも有形固定資産の減価償却が進んでおり、保有資産が耐用年数に近づいている。

管路更新率については、類似団体より低い水準となっている。計画的に更新を行うことで、適切な維持管理に努めたい。

全体総括

健全な経営に向けて、経費削減や効率的な維持管理に努めるとともに、適切な料金設定を設ける必要がある。また、持続可能な事業である為に、今後は一層耐用年数に近づく資産が増加するので、統廃合など含めて、計画的に更新を行っていかねばならない。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

経営比較分析表（平成29年度決算）

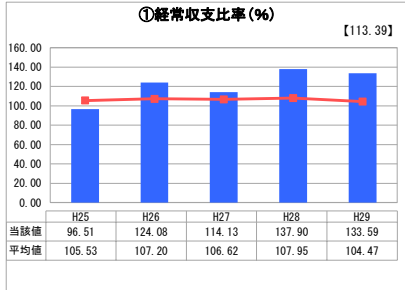
岡山県 和気町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	95.14	35.42	2,571	

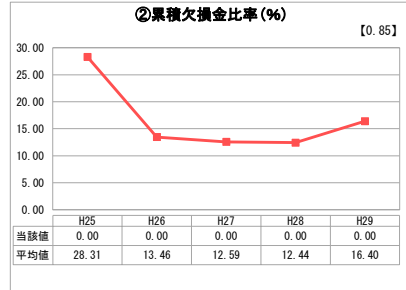
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
14,452	144.21	100.21
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
5,110	4.02	1,271.14

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 平成29年度全国平均

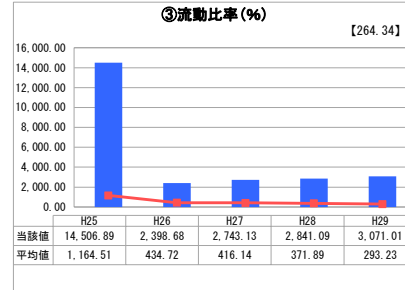
1. 経営の健全性・効率性



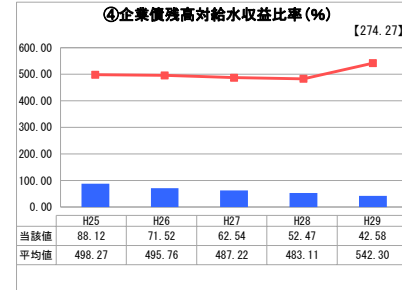
「経常損益」



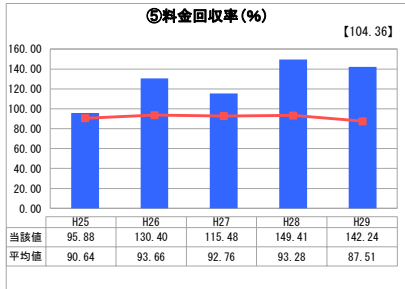
「累積欠損」



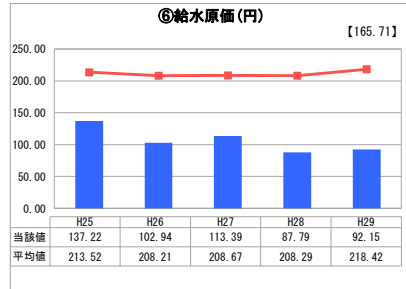
「支払能力」



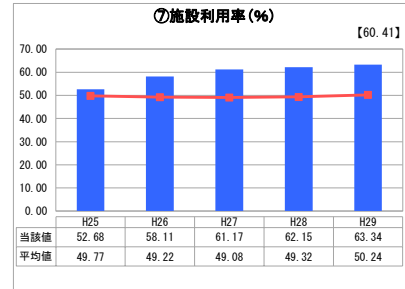
「債務残高」



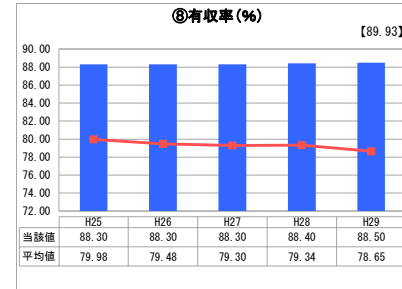
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

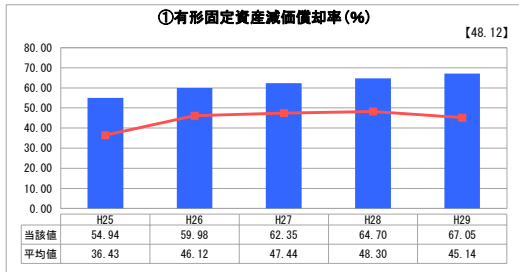


「施設の効率性」

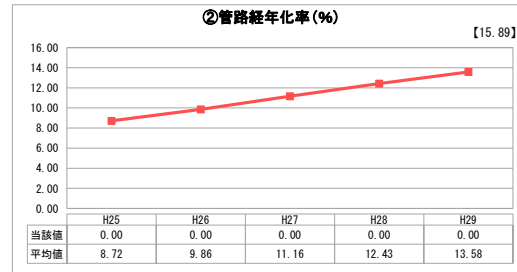


「供給した配水量の効率性」

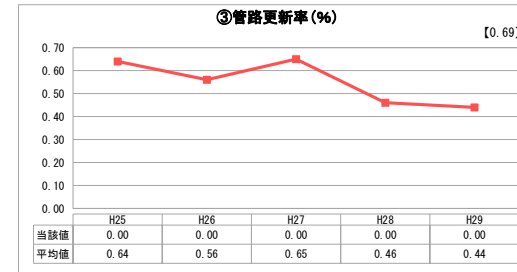
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率については、平成26年度から企業の給水収益が増加したことで上昇している。平成29年度は、委託費用の増加で前年度を若干下回る結果となった。

流動比率については、平成24年度から減少し、平成26年度からは、会計制度の変更に伴い、類似団体へ近づいた数値となった。

企業債残高対給水収益比率については、平成26年度から、企業の給水収益が増加したことで減少の要因となった。類似団体より低い理由として、投資規模が適正であることが要因としてあげられる。

料金回収率はH28年度から高い数値を保っており、その要因については、平成26年度から企業の給水収益が増加したことで、供給単価が減少したことがあげられる。

給水原価については、平成28年度に減少したが、平成29年度は、経常費用の委託料が増えたことで増加となった。類似団体と比べて、低い水準であるが、今後もさらなる適正な維持管理に努めている。

施設利用率については、平成26年度から、企業の給水量が増加したことにより上昇している。類似団体と比べて、高い水準となっている。

有収率については、近年、ほぼ横ばいで推移している。類似団体より高い水準となっており、今後も適正な維持管理に努めたい。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率については、近年、上昇傾向で推移しており、類似団体と比べて、高い数値となっている。保有資産の法定耐用年数が、近づいている施設もあるので、今後は、計画的な施設更新を考えている。

全体総括

経営の健全性に向けて、さらなる維持管理の効率化で経費削減に努め、適正な料金改定を進める必要がある。また、施設の老朽化に備え、浄水・配水施設や管路等の計画的な更新を進め、健全な事業運営に努める。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。